



虫こぶの不思議 (その 2)

前回(第 24 号)は、虫こぶの名前の付け方をご紹介しましたが今回は虫こぶがどのように利用されてきたかをお話したいとおもいます。

虫こぶは昔から人々によって様々な利用のされ方をしてきました。一見すると気持ちの悪い形状の虫こぶが多いのにそれをどうして利用する気持ちになったのか不思議な気がします。きっかけになったのは、虫こぶをなめたり噛んだりしてみて苦味や渋みを感じた事から何かに使えるかなと考えたのでしょうか。様々な形、目立つ色のものなど虫こぶは興味をひく物体であった事に間違いはないでしょう。それにしても先人たちの勇敢さに脱帽ですね。

虫こぶの出現は天変地位と関係がある・植物の病気ではないか等と考えられていたようです。最初に虫こぶの正体についてに明らかにしたのは、1700年、イタリアのブレリスニエリとされています。日本でも古い記録に虫こぶのおもしろい記述が残っています。これは、またの機会にお話したいとおもいます。さて、実際にどのような利用があったのか。

薬: タンニンによる効果、、、傷口や潰瘍の出血を止め分泌物を減らす効果・下痢や消炎剤効果、タンパク質系の有害物質に対しては解毒剤効果。家畜の下痢止め。などが知られています。

(現在の知識からは、どうなのでしょう?)

インク: ブルーブラック系インクがつくられた。

染める: 糸・布・皮などの染色の材料として利用されてきた。

食べる: 人間が食べたり、家畜のエサに利用されたそうです。(おいしいかしら?)

お歯黒・入れ墨・いけばなの材料・除草などに利用されてきました。
様々な利用の仕方に驚きます。(高橋)

写真は木もれびの森でみられる虫こぶです。H 地区で撮影しました。

クヌギエダイガフシ 形成者:クヌギエダイガタマバチ

参考文献:「虫こぶ入門」



木もれびの森の虫たち

寒さが骨身にしみる日々が続いておりますが、虫たちもじっと動かず我慢の時を過ごしております。この時期は森を散策しても、動いている虫に出会うことはありません。こちらから注意深く探さないとその姿を目にすることも難しいのです。虫たちは次の様に、いろいろな姿で越冬します。

- ① 卵で越冬(主に秋に成虫でいるもの) .. コオロギ、バッタ、カマキリ、ナナフシなど
- ② 幼虫で越冬(主に夏に成虫でいるもの) .. カブトムシ、ミノガ、ゴマダラチョウ、タマムシ、カミキリなど
- ③ さなぎで越冬(完全変態のもの) .. アゲハチョウ、モンシロチョウなど
- ④ 成虫で越冬(主に秋に羽化したもの) .. テントウムシ、オサムシ、アリ、スズメハチ、カメムシなど

前号で記述したフユシャクガは最近殆ど見かけません。かなり多くの種類のフユシャクがいて、発生時期も異なるようで今の時期はいないのか、個体数が減少したのかわかりませんが、幸運にも平成27年1月中央緑地でクヌギの幹でじっとしているフユエダシャクのメスと思われる個体に出会うことができま

した。同日観察できた他の虫たちを含めご紹介します。24節季の3番目で、虫たちが動き出すといわれている啓蟄は3月6日です。もう少しの我慢です。(海野)

平成27年1月撮影 活動地、中央緑地



フユエダシャク類のメス



ヨコヅナサシガメ



アオクサカメムシの仲間



カメムシ類



ゴマダラチョウ幼虫



フユシャクの仲間



ミノガの幼虫(ミノムシ)



何かの抜け殻

用水路沿いの植物

新年を迎えた1月の森は、落葉樹の多い事もあり茶色の森と変身しています。用水路には、イノコヅチの終わりの姿が落ち葉と共に埋め尽くされ、シダ植物のみ緑濃く青々と茂っています。

鳥が運んできたのでしょうか、2本のユズリハの幼木が(30cm)用水路の中で青々とした葉を成長させているのには驚き、今後は楽しみにになりました。落ち葉の間からは春を知らせる若菜が2,3芽を出しているのもありました。この先雪も降る事もあろうに、『がんばれ』と声をかけたい気持ちでした。

水路周辺はナキリスゲが株になって茂り、散策する人の目を楽しませているのではないのでしょうか。花の季節まであと一月、待ちどおしいですね。

***ナキリスゲ(菜切管)** カヤツリグサ科 スゲ属

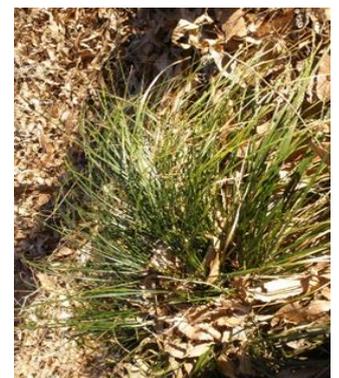
山地の林の中の湿ったところに生える常緑多年草、葉の淵がザラザラしていて、葉っぱでも切れそうだというのでこの名がある。高さは40~80㎝になり大きな株をつくる。地下茎はない。葉は、暗緑色でかたく、幅2~3mmの細い線形、両面がざらつき、断面はV形。花期は秋から冬にかけて穂状につく。小穂は、長さ1~3㎝、幅4mmほどで、それぞれ上部に雄花、下部に雌花をつける。カンスゲやミヤマカンスゲと間違いやすいが、花の時期や葉の断面などで確認してみましょう。

***イノコヅチ(猪子槌)** ヒユ科 イノコヅチ属

林の中などに生える多年草。茎は四角形で節の部分が膨らんでいる。花期は夏から秋、緑色の小さな花が穂になってつき、横向きに咲くが、果実は下向きになって花穂の軸にぴったりとつく。今の時期果実は茶色、衣服が触れようものならたちまち、つきまどってくるので散策の折は、気をつけてください。(野口)



ユズリハ



ナキリスゲ



イノコヅチ